

市報 手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬

きよせ

ママもわたしも安心だね
きよせだから



子育て 応援特集号

市では、市内NPO法人などと連携し、さまざまな子育て支援サービスのメニューをそろえています。それらをもっと活用し、「きよせで子育てをして良かった!」と思ってもらいたいという願いを込めて、子育て応援特集号をお届けします。

問合せ 子ども家庭支援センター ☎495・7701

Special Interview 現役子育てママ・インタビュー ～清瀬を選んで良かった!～

子育ての楽しさ・大変さを一番感じてるのは子育て中のパパ・ママです。そこで、清瀬で子育て奮闘中の現役ママにインタビューを行いました。子育てのリアルな声や市が行っている支援について、これからパパ・ママになる方にとって参考になれば幸いです。

地元を離れての子育て ～理想とのギャップ

練馬区出身の松本さんが、清瀬に引っ越して来たのは9年前。地元ではない場所での妊娠・出産は、不安が多かったといえます。

「21歳での妊娠で、同級生はほとんど独身でした。近くに知り合いもいなかったで、『夫が帰ってくるのをただ待つだけ』という感じでした」

それでも、生まれてくる赤ちゃんとの幸せな生活を考えると、不安な毎日乗り越えることができました。しかし、本当に大変なのは、『生まれた後』であることを実感します。

「生まれたらすぐ子どもがかわいくて、幸せな生活が待っていると思っていました。妊娠中の辛さや不安も、それで解消されると思っていました。でも実際は、産後の体は痛いし、慣れない授乳や赤ちゃんのお世話、睡眠不足も加わり本当にしんどくて。あとは、泣かれるのが

辛かったです。『泣いたらすぐに行かなくちゃ』と24時間気を張って、泣いていないのに泣いている気がして、『お願いだから泣かないで』と私の方が泣いてしまうこともありました」

出産前に考えていた「理想のママ像」に近づけないことに、松本さんは悩みました。

『「いいママ」になりたいと思っていました。母親なら『子どもがかわいい』と心から思えるのが当たり前だと思っていました。でも、子どもが泣いた時にイライラしてしまう自分がいて、そんな自分はダメなママになって。周りのママ達はすごく上手に子育てできているように見えました。ベビーカーに乗りながら泣いている子どもの横を他のママがベビーカーを押して通って行くのを見て、「ああ、私だからうまくいかないんだ」と惨めな気持ちになりました。

勇気を出して参加した 子育て事業がきっかけに

「理想のママ」になるために、自分を追い込んでしまっていた松本さんの考え方を変えたのは、市から勧められて参加した「新米ママと赤ちゃんの会」(以下、赤ちゃん会)での、他のママ達との交流だったといえます。

「私は最年少でしたが、自分よりしっかりしている姿を見て、ホッとする部分がありました。みんな同じように悩みながら頑張っているんだ

なって。この会で産後初めて、ママではなく、自分自身に戻れたのも良かったです。会を通して年齢も前職も関係なくお友達ができました。自分らしく話せる場所、子どもがぐずっても『お互いさま』と過ごせる場所ができてありがたかったし、一緒に子育てする仲間ができて、子育てが楽しいと思えるようになりました。」

市の事業などには積極的に参加するタイプではなかった松本さんが、「赤ちゃん会」に参加した理由は、他でもなく子どものためだったといえます。

「最初は勇気が必要でした。『ママ友』という響きにも煩わしさや苦手意識がありました。でも子どものために『いいママ』になりたいから、『他の赤ちゃんとの交流はこの子にとって良いだろう』と思い、参加しました。でも実際に参加してみて、まず私が笑顔になれたことが何よりの収穫でした。ママが笑って子育てできることが赤ちゃんにとって1番だと思うので。」

今でも交流が続いていて、お誕生日会やお花見などを催しています。子どもにとっても私に

とってもこの関係は財産です。」
そして、さまざまな子育てサービスを利用するなかで、清瀬市には他の自治体と比べても、多くのサービスがあることを知りました。
「子育てサービスが充実した市だから清瀬を選んだわけではありませんでしたが、公共施設でもらえる資料や、新生児訪問の際に紹介されて、市や『ウイズアイ』や『ピッコロ』がいろいろな事業をやっていることを知ったんです。市外の友達に『そんなサービスがあるんだ』と驚かれることもあります。例えば『親子歯科健診』は4歳までフッ素塗布があって、保護者の歯科健診もしてもらえるので、羨ましいと言ってもらえます。よく利用しているサービスのなかでも、一時保育はありがたいです。私は専業主婦なので、最初は『共働きでもないのに』と預けることに後ろめたさがありましたが、短い時間でも預かってもらえる本当に助かりますし、実家のように安心して子どもを託せる場があることは、子育て中の心の拠り所です。低価格なのもありがたいです。」

9年間で広がった交友関係が生んだ「ありがたい」環境

1人目の子が生まれた時には、不安を抱えていた松本さん。勇気を出して参加した「赤ちゃん会」から広がった輪が、環境を変えました。

「『赤ちゃん会』に出て、『劇的に何かが変わった』というわけではありません。でも、そこで知り合った人たちとのつながりが9年あって、今すごく幸せな環境になっています。今だからこそ、『ありがたい』と思うんです。子どもが外に出るとご近所さんが気軽に声を掛けてくれます。だから、例えば災害時に家族がバラバラになったとしても、「この子は誰かしらが助けてくれる」と思えるんです。また、3人目の妊娠中、お腹が大きくなるのを喜んでくれる人がたくさんいて、孤独だった最初の妊娠中と

は環境が変わっていることを実感しました。声をかけてもらえることが嬉しく、幸せな妊婦生活でした。

私は小さい頃、『ご近所付き合い』がありませんでした。『昔ながらのご近所付き合い』が良いものとは分かっているけど、経験がないからやり方も分からない。でも、今のご近所さん達はみんな仲が良いです。それもやっぱり子どものおかげなんです。外遊びの時に面倒を見てくれたり声をかけ合ったり。そんな関係ができていると、迷惑がかかった時も『お互いさまね』と笑顔で終われる。いい環境だと思います」

以前の松本さんのように、悩みや葛藤を抱えながら子育てをしているパパ・ママはたくさんいます。そんな人に松本さんが言葉を掛けるとしたら、どのような言葉を掛けるのでしょうか。

「自分が苦しかった時に、『もう少し成長したら楽になるよ』『2人目が生まれると変わるよ』と言われても、救いにはならなかったと思います。なので、言葉を掛けるとしたら、『本当にえらい! がんばっているね』と言います。

1人目のパパ・ママの多くは、あれもこれも自分達だけで頑張ろうとしがちですが、それは絶対に無理なんです。協力してくれるおとなが3、4人くらいいて、ようやく自分を保てると思うんです。私も今、母と夫とお友達いて、話せる機会があるし、頼れる環境があります。それでもイライラすることもあるし、なんとか毎日をこなしています。初めて子育てをするパパ・ママが『自分1人』なんてとても無理で、「子育ては1人では無理」。それを知っていれば、自分を責めなくても済むし、気持ちは楽になるはずなんです」

9年前、清瀬を子育ての地へ選んだ松本さん。今、当時の選択をどう思っているのでしょうか。「清瀬を選んで良かったと思います。今の環境で出会った人というのは、ここでしか出会えなかった人たちですから」



取材中、終始ご機嫌だったみちなちゃん。「3人目だからか、ちょっとのことでは動じなくなった」という松本さんは、「いいママ」の顔でした。

市内で行っている
主な子育て事業

- ◆ホームビジター派遣事業(★)
- ◆ファミリー・サポート・センター事業(★)
- ◆赤ちゃんのチカラプロジェクト
- ◆子どもショートステイ事業
- ◆ひとり親家庭ホームヘルプサービス
- ◆養育支援ヘルパー派遣事業
- ◆新米ママと赤ちゃんの会(★)
- ◆アサーティブ講座
- ◆CSP(コモンセンス・ペアレンティング)講座
- ◆つどいの広場事業(ころぼっくるつどいの広場・元町つどいの広場・竹丘つどいの広場・下宿つどいの広場・野塩つどいの広場・野塩出張所広場・こあらルーム)
- ◆子育て・キラリ・クーポン券(★)

(★の事業は中面でも詳しく紹介しています。その他の事業の詳細については、下記で紹介している「子育てガイドブック」をご参照いただくか、子ども家庭支援センター ☎495・7701にお問い合わせください)

新しくなりました!
清瀬市子育てガイドブック

『清瀬市子育てガイドブック』は、市内の子育てに関する情報をもれなく記載した子育てサポートの決定版です。制度改正などに伴い、このたび新しくなりました。

主な内容は、妊娠からの手続きの流れや、健康診査に関するご案内、乳幼児の健康・予防接種に関するご案内、親子で集える場・預かり保育など子育て関連事業のご案内、障害のあるお子さんのための福祉制度に関するご案内などです。無料ですので、ぜひ手にとってご覧ください。

【配布場所】
子ども家庭支援センター・健康推進課・子育て支援課・市内各つどいの広場
※子ども家庭支援センター以外の窓口は、在庫がない場合もあります。あらかじめご了承ください。
※電子版として、インターネット上での閲覧およびダウンロードが可能です。

こちらも Check!
中面では、市の子育て支援事業のなかでも特色のある4事業について、詳しく紹介しています。

市報きよせ 子育て応援特集号
発行/清瀬市 編集/企画部秘書広報課